



「Trilateral Leadership Summit 2014」について知っている人はほとんどいないかも知れません。ハーバード大学が後援し、日中韓の3カ国の高校生や大学生が集まって様々な問題について討議しようという国際的なプログラムです。ホームページを見ると下記のようにあります。この会への参加を希望し、選ばされた高校2年生の柴田君にどんな会であったか報告してもらいました。

How will Asia's young people lead in the 21st century? The future of one's country and region lie in the hands of its young people. The opportunities for global leadership are ripe in Northeast Asia and in its potential to be the most prosperous region in the world. But the region also faces challenges due to the geopolitical and strategic uncertainties surrounding its complex historical and territorial issues. Opportunities to convene young representatives from China, Japan, and South Korea to participate in discussions, simulations, and skill-building workshops increase the chances for future leadership initiatives in the region, while offering a platform for inter-country dialogue, networking, awareness-raising, and collaborative skill development.

The Trilateral Leadership Summit will be held at the UNESCO Peace Center in Icheon, South Korea on November 12-15, 2014. This conference provides attending high school delegates with practical knowledge, skills, and experience through workshops on leadership, public speaking, and problem solving while instilling a mindset to pursue peace and common prosperity in their future respective fields, in their home region of Northeast Asia and around the world.

高校2年の柴田星斗です。ベネッセ主催の「海外大学進学ガイダンス」の時に紹介されて興味を持ち、参加した「Trilateral Leadership Summit 2014」について報告したいと思います。

・プログラム紹介

このプログラムは日本、中国、韓国の高校生が対象で、場所は韓国、期間は11/12～15の3泊4日です。内容については、講義(workshop)を受けることと、プレゼンして、議論するグループワークの大きく分けて2つありました。このことに関しては後で詳しく説明します。

このプログラムは全て英語によって行われます。もちろん、日本人と日本語で話すことはありましたが、周りは中国人や韓国人ばかりなので、基本的には4日間英語漬けでした。英語が上手な人はとても上手なのですが、みんなネイティブではないので、気楽に話すことができ、日常会話で困ることはありませんでした。英語を使ってコミュニケーションがとれるという楽しい経験をした一方で、英語力のなさも痛感しました。

参加者は、日本人8人、中国人16人、韓国人26人で、中国や



韓国の高校生に会える機会は滅多にないので、とても良い経験になりました。多種多様な人がいましたが、社交的な人が多かったように思います。僕は人見知りする方なので、頑張って普段より話すようにはしていましたが、それでも、“shy boy”だと言われました。初対面の人と友達のように話せる彼らが羨ましいです。

・講義について

大学の教授や外交官の講演(lecture)を聞いたり、ハーバード大学出身の人たちから講義(workshop)を受けたりしました。workshopは次世代のリーダーのための講義で、キーワードを挙げていくとEmpathy(共感)、Persuasion(説得)、Negotiation(交渉)など計7つ受けました。授業の形式は1コマ90分で、日本の学校のような一方的な授業ではなくinteractive(対話的)な授業でとても楽しかったです。ただ、英語の講義を聞いて、質問に答えたり、意見を述べたりするのはとても難しく、自分の英語力が全然足りないことを実感しました。

workshopの中で1番面白かったのは、Negotiation(交渉)の授業です。僕は音楽バンドの代表者の役で、隣の席の人がレコード会社の社長の役をやり、契約金についての交渉をしました。初めにそれぞれの立場の説明が書かれた紙が配られ、それを読んで、どのように交渉するのか対策を立てて交渉を始めます。全て英語だったので結構難しかったのですが、かなりの額の契約金をもらい、交渉を終えることができました。

・グループワークについて

What are the biggest obstacles that prevent Korea, Japan, and China from cooperating? In what ways can we overcome these obstacles? (韓国、日本、中国の協力を妨げる最も大きな障害は何か。また、どのような方法でその障害を乗り越えられるのか。)これが初日の夜に課せられた提出課題でした。みなさんはどう思いますか。僕は、過去の戦争などの歴史的な背景と、メディアの影響で形作られた他国に対する誤解などだと考えました。

これを書いた翌日にグループでディスカッションをしました。そして、その後に日中韓の関係を良くするためのアイデアを1人1つ考えて、プレゼンし、その中から、優れたアイデアを選び、それに関して話し合いなどをしました。テーマはSocial Cultural(社会文化)、Educational(教育)、Economic(経済)、Political(政治)の4つがあり、グループごとに割り振られていました。

僕のグループはSocial Culturalだったので、各国の現代の文学作品を共有できるウェブサイトの立ち上げを提案しました。また、文学作品にとどまらず、日本の漫画や韓国のK-popなど、現代の様々なものを共有することを考えました。僕のグループからは、日中韓の歴史に関する映画の撮影と日中韓の若者が交流できる様な団体の立ち上げの2つが選ばれました。みなさんも是非考えてみてください。

・日中韓関係について

新大久保はコリアタウンとして有名なので、韓国人を見かける機会が多いと思いますが、みなさんは中国や韓国についてどう思っていますか。プラスのイメージを持っている人はあまりいないのでしょうか。少なくとも、僕はそうでした。実際はそんなに悪い人ばかりではないだろうなどは薄々思っていたのですが、日本に文句言ってくるうるさい国という程度の認識でした。しかし、実際に会って



みて、感じたことは中国や韓国の人も僕らと変わらない普通の人たちということです。政府と国民は別物です。

また、韓国の人が、日本人にあまりいい印象を持っていなかったけど、今日実際に会ってみたら、いい人たちだった、と言うようなことを言っていて、とてもうれしく思いました。一番良くない事は、マスメディアやインターネットなどの情報を信じてその国の事を良く知りもしないのに、誤ったイメージを持ってしまう事です。まずはその国についてほとんど知らず、偏った見方をしていることを自覚することが必要です。

・印象に残った話

このプログラムを通して、最も印象に残っている言葉は “If you don't know where you are going, any road will take you there.” (もしどこに向かっているのか知らなかったとしても、どんな道でもどこかには連れて行く) というものです。これは、次の、不思議の国のアリスの場面の言い換えだそうです。

“Would you tell me, please, which way I ought to go from here?”

“That depends a good deal on where you want to get to,” said the Cat.

“I don't much care where—” said Alice.

“Then it doesn't matter which way you go,” said the Cat.

“—so long as I get SOMEWHERE,” Alice added as an explanation.

“Oh, you're sure to do that,” said the Cat, “if you only walk long enough.”

日本語訳

アリス「ここからどこに行くべきか教えてくださいませんか」

ネコ「それはどこに行きたいのかによるよ」

アリス「べつにどこでもいいわ——」

ネコ「だったら、どっちに行っても関係ないよ」

アリス「——どこかに着きさえすればね」

ネコ「ああ、もちろんどこかには着かさ、十分長く歩けばね」

「どこか」に着くなら、どこに行ってもいいというアリスに対し、長く歩けば「どこか」には着くというネコ。つまり、目標を持っていなくても、必ずどこかにはたどり着き、そのたどり着いた所が目標になってしまうということです。例えば、目標を持たずに毎日を送っていて、捕まって一生刑務所暮らしになったとしたら、刑務所に行くことが人生の目標であるということになってしまいます。

だからこそ、自分の望む場所に行けるように目標を持って日々を生きることは大切なのです。皆さんは1年後、10年後、人生、の目標はありますか。ほとんどの人はそういった目標を紙に書きませんが、目標を紙に書き、それをときどき確認すると良いそうです。

・感じたこと

このプログラムの間に、日本に関していろいろと聞かれました。例えば、なぜ日本の首相は問題を引き起こすことが分かっているのに靖国神社に参拝するのか、日本人は天皇についてどう思っているのか、などです。あまりこういったことに興味を持っていなかったもので、これからは関心を持たなければいけないと感じました。また、日本語でも答えるのもなかなか難しいですが、それを英語で言わなくては行けないので、やはり、英語は重要です。僕も領土問題や、中国の情報統制などについての話を聞いて、

とても面白かったです。今までは中国や韓国について全然詳しくなかったもので、もっと知りたいと思いました。

また、中国語など、英語以外の言語を学ぶことの必要性も感じました。中国や韓国の人で、英語以外に日中韓のどれかの言語を自主的にもしくは学校で学んでいる人が結構いました。その点日本は高校で英語しかやらないし、自主的にやっている人もあまりいないので、見習うべきだと思います。

もう1つ感じたこととしては、当たり前のことですが、政府と、国民は違うものだということです。例えば、中国の政府が気に入らなかったとしても、中国人を嫌う理由にはなりません。そのことが確認できたのは自分の中では大きなことでした。

・最後に

中国人や韓国人と友達になったり、その国を訪れたりしてみると自分の考えは変わると思います。相手の考えを知ることで、日中韓の問題について日本側からのみではなく、客観的に捉えられるようになり、そのことが、将来的に日中韓の関係を良くすることにつながります。みなさんも関心を持ってみて下さい。

「地球村プログラム」について

先日、プログラムの実施場所となる「大原学園富士宮研修センター」を、グローバル教育研究所理事長の渥美氏と視察してきました。教室棟、グラウンド、講堂、宿泊棟などが、富士山の裾野に広がる約 528,000 m²の敷地に点在しています。(因みに、海城学園は 21,491.79 m²) 教室

も、ゆったりとしたスペースの教室が使えるようになりました。宿泊棟は、すべて個室です。ベッドと広めの机が各部屋にセットされています。施設を見た渥美氏は、プログラムのイメージを膨らませているようでした。本プログラムの主旨を知りたい方は、『『世界で戦える人材』の条件』(渥美育子著、PHP ビジネス新書)を是非お読み下さい。「グローバル」ということを考えるときのヒントがたくさん示されています。



実施(3/21~3/23)に当たっては、往復とも貸切バスを利用する予定ですが、少人数の場合は新幹線となる可能性もあります。

なお、「仮申し込みは」、終業式の12月22日(月)まで受け付けます。今回見送った方も、1月下旬の「本申し込み」は可能です。しかし、プログラム作成に当たってできるだけ早めにおおよその参加者人数を把握したいので、「仮申し込み」をお願いします。